

# 発掘だより No. 38

豊川市教育委員会 生涯学習課発行

〒442-8601 豊川市諏訪1丁目1番地

平成16年9月18日(土)発行

TEL(0533)89-2158(直)

## 平成16年度国分寺北遺跡発掘調査の概要

豊川市教育委員会では、豊川西部土地地区画整理事業に伴い、工事の対象となる遺跡の発掘調査を実施しています。

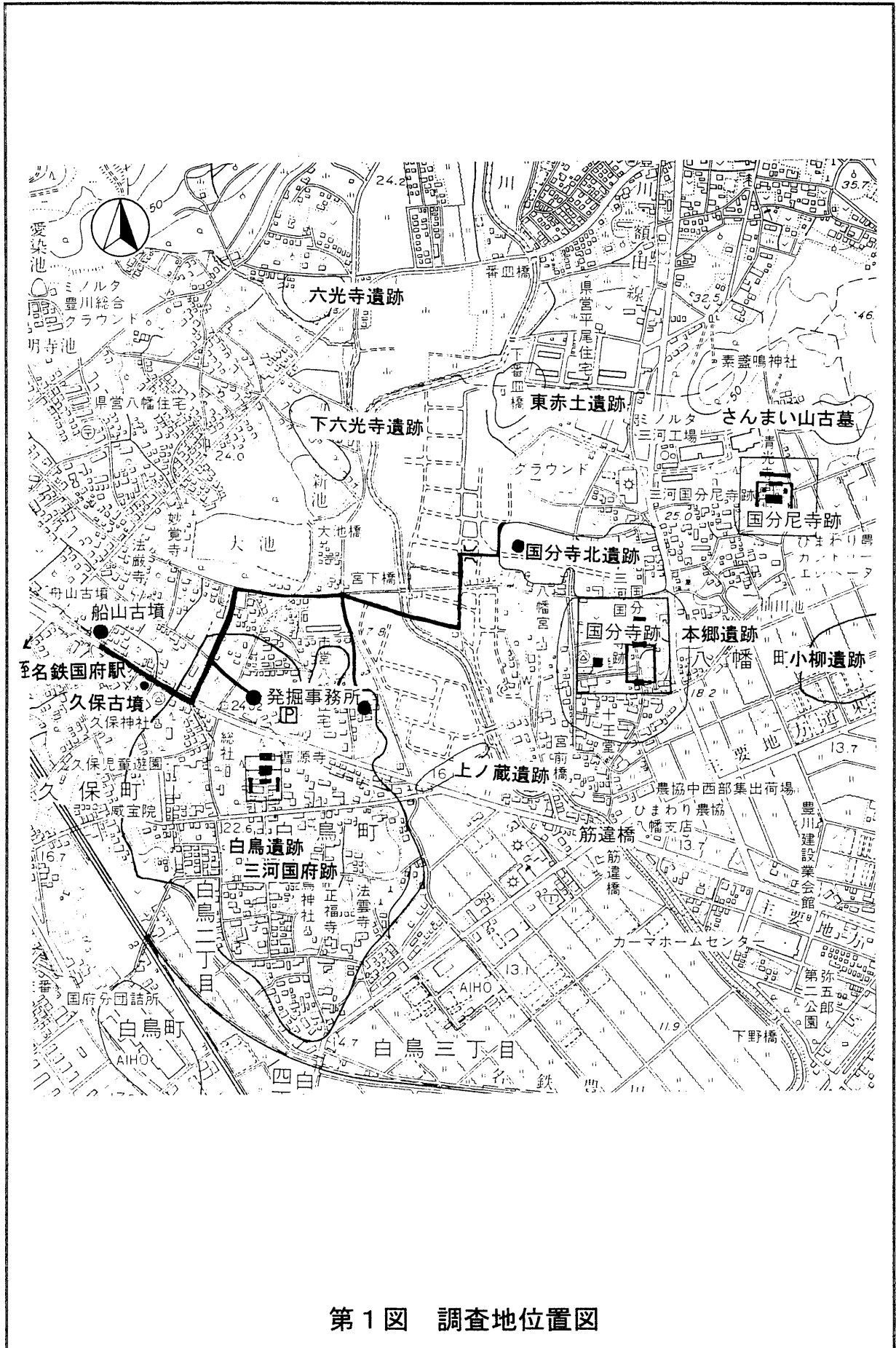
国分寺北遺跡は名古屋鉄道名古屋本線国府駅から北東へ約1kmに位置する遺跡で、西古瀬川の左岸に開折された八幡台地(標高約22m)に東西方向へ展開しています。国分寺北遺跡の北側には、古代の集落遺跡である東赤土遺跡が広がっています。また、南西に500mほど進むと古代の国府が置かれ栄えた白鳥遺跡、南には古代の道路跡が見つかった上ノ蔵遺跡があります。

国分寺北遺跡ではこれまでに多くの調査が行われています。遺跡の西側では戦国時代の八幡砦跡に関連する遺構、遺跡の東側では、弥生時代から古墳時代にかけての方形周溝墓や竪穴住居、奈良時代から平安時代にかけての三河国分寺に関連する区画溝や掘立柱建物など数多くの遺構が検出されていることから、複数の時代にわたって栄えていた遺跡であることがわかっています。

今回の調査地は宅地建設予定地で、国分寺北遺跡の中でも西側に位置し、八幡砦の中心域にあたります。

### 1. 調査概要

- ・ 調査期間 平成16年5月25日から9月末まで
- ・ 調査理由 豊川西部土地地区画整理事業に伴う事前調査
- ・ 調査主体 豊川市教育委員会
- ・ 調査面積 1,500㎡



第1図 調査地位置図

## 2. 確認された遺構・遺物

今回の調査では縄文時代から江戸時代にかけての遺構・遺物が検出されました。その中でも主要なものを紹介します。

### ・縄文時代の遺構・遺物

煙道付炉穴<sup>えんどうつきろけつ</sup> 4基検出されました。いずれも遺物の出土はありませんが、過去の調査で検出したプランと似ていることから、同時期の縄文時代早期<sup>そうき</sup>の遺構であると考えています。過去の調査とあわせると国分寺北遺跡では16基検出されたこととなります。

愛知県内では、浜井場遺跡<sup>はまいば</sup>（小牧市）で9基、ヒロノ遺跡（稲武町）で1基確認されており、国分寺北遺跡は県内3例目となります。

落とし穴状遺構 調査区の西側で1つ検出されました。遺構の底には杭を打っていたと思われる穴が確認できました。遺物は出土していませんが、周辺調査で検出したものと考えると縄文時代の落とし穴として使われた可能性が高いと思われます。

### ・戦国時代の遺構・遺物

八幡砦に伴うと考えられる、掘立柱建物、堀、溝等が検出されています。

掘立柱建物<sup>ほったてばしらたてもの</sup> 今回の調査区内で八幡砦に伴うと考えられる建物は3棟検出されています。SB606は八幡砦の中心施設になるものと考えられます。過去の調査で検出した戦国時代の掘立柱建物とあわせると8棟となります。

堀 東側の堀を検出しました。幅6～7m、深さ1mです。過去に調査した、ほかの辺と同様に浅く、腐植土層<sup>かしよくど</sup>の堆積がほとんど見られないことから空堀であった可能性が高いと言えます。

井戸 素掘りの井戸1基を検出しました。直径1.5m、深さは約3mまで掘り下げましたが湧水のため掘削を中止しました。

## 3. まとめ

今回の調査では、過去の調査と同様、様々な時代の遺構や遺物を検出することができました。中でも、八幡砦内の建物配置がわかってきたことが最大の成果であるといえます。

過去の調査データと総合してみると、八幡砦は100m×100mのほぼ正方形の方形<sup>たんかく</sup>単郭であり、砦の4辺にはそれぞれ堀と土塁が築かれていることがわかります。土塁の北西角には物見やぐらと想定される掘立柱建物が建てられています。東側の堀には<sup>とぼし</sup>土橋が作られ、土橋の東側には<sup>うまだし</sup>馬出もしくは<sup>ますがた</sup>舁形と考えられる小規模な堀が作られていました。また、砦内には井戸が作られ、大型の掘立柱建物を中心に複数の建物が存在していました。

合戦の痕跡となる焼土や武器、武具等は出土しませんでした。今後、出土遺物等の整理調査が進むとさらに当時の様子が復元できると考えています。

今回の調査で、八幡砦の約7割に当たる調査が完了したことになります。今後は、国分寺北遺跡の東側に広がる国分寺寺院地を調査していくことになります。

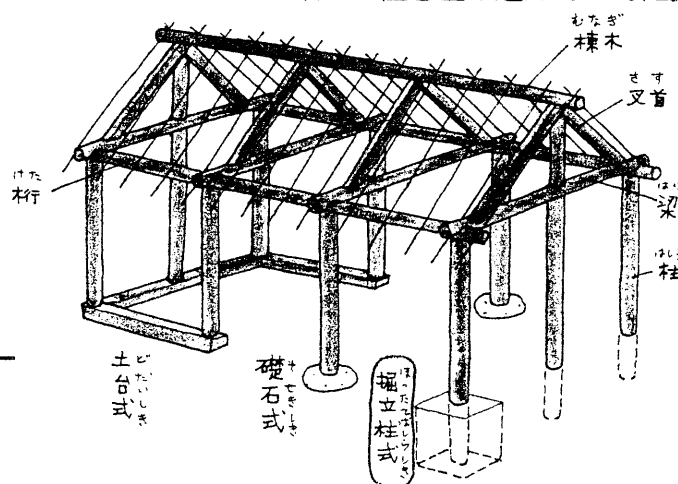
## ・ ようごかいせつ 用語解説 ・

★ <sup>いせき</sup>遺跡 … 過去に人々が生活し、そこに遺構や遺物が残されている場所。集落跡や貝塚、古墳などの目立つ遺構がある場合のほか、最近では周辺の自然環境を含めて遺跡の範囲に取り入れることも多い。

★ <sup>いこう</sup>遺構 … ①大地に刻まれたり、取り残された非可動的な人為による痕跡。②当事者およびその属する社会にとっての機能が停止した施設。

★ <sup>いぶつ</sup>遺物 … 過去の人間活動の痕跡を何らかの形で示している可動的な物質。この中で、石器や土器のように加工された結果を残すものを人工遺物、加工の跡は見られないが、食用のために運搬され、のちに廃棄された貝塚や獣骨などを自然遺物と呼ぶ。さらに現在ではその役割を担っていないという点において<sup>でんせいひん</sup>伝世品と区別される。

★ <sup>ほったてばしらたてもの</sup>掘立柱建物 … 地中に穴を掘って柱を埋め込んで立てた掘立柱式の建物。



★ **ピット** … 地面に掘られた遺構としての総称。土坑の同義語。ただし、例えば柱穴などの比較的比較的に小形のものに対して、土坑の用語を用いることはないが、ピットは使用される。この点を考慮するならば、ピットのほうが土坑よりも広い対象に用いられる傾向にある。

★ **土坑**<sup>どころ</sup> … 地面を掘り窪めた穴の総称。普通は柱穴のように大形で機能が明らかなものの中に位置する規模の穴をさして用いる。

★ **落とし穴**…大形ないしは中形の陸上動物を獲るためのワナのひとつ。平面形は楕円形や、葉巻形などが多い。地面に穴を掘り獲得対象の違いによって杭を立てたり、底を狭めたりしたつくりになる。

★ **馬出**<sup>うまだし</sup> … 虎口の前に土手、土手と堀、堀などを構え、城兵の出入りを保護するとともに、敵兵の進退を妨げる設備。形や設けられる場所によって種類がある。

★ **舁形**<sup>ますがた</sup> … 四角形の地域。

★ **郭**<sup>くるわ</sup> … 城の中の一区画。曲輪とも書く。

★ **文献資料に見る八幡砦の歴史** … 八幡砦に関する資料は多いとはいえないものの、改定三河後風土記、尾三郷土史上巻、御当家紀年録、寛永諸家譜、三河国宝飯郡誌、牛窪密談記、宮島伝記、牛窪記（上巻）、などに登場する。大筋は以下のとおり。

八幡砦は、永禄3年（1560年）の桶狭間の戦いで、今川義元が討たれた後、今川を離れ織田側についた松平（徳川）が、東三河進出を計画し始めたことを意識し、一度は駿河（静岡）に引き返した今川氏が構築したといわれている。

今川氏の家督を氏真<sup>うじまね</sup>が継ぎ、吉田・牛久保を防御するための前線基地として、岡崎から東海道を<sup>やわたりで</sup>通って御油に<sup>まわきとりで</sup>でる敵には八幡砦、沿岸からの敵には佐脇砦（御津町）を置いた。

永禄5年（1562年）9月に合戦があり、松平元康（徳川家康）の家臣酒井忠次が一千余騎の兵を率いて両砦を攻めた。八幡砦を護っていた板倉弾正重定<sup>しげさだ</sup>や佐脇砦を

護っていた三浦左馬助よしなり義就らが応戦し、一度酒井の軍勢は御油まで退いたが、新たな兵を引き連れた松平の本隊と合流し、再度両砦を攻めた。この結果、板倉弾正は討ち死にし、勢いのついた松平勢は両砦を攻め取った。

### 参考文献

『豊川市史 資料編』豊川市教育委員会 2003年

『新装版 日本城郭辞典』東京堂出版 1995年

『古建築辞典』理工学社 1994年

『日本人はどのように建造物をつくってきたか 平城京 古代の都市計画と建築』草支社 1986年

『最新日本考古学用語辞典』柏書房株式会社 1996年

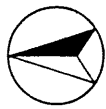
## \(^o^)/ しろとり 白鳥遺跡・ふなやまこふん 船山古墳公開のお知らせ \(^o^)/

豊川市教育委員会では平成16年度の発掘調査事業として白鳥遺跡と船山古墳の調査を行っています。

白鳥遺跡では縄文時代の煙道付炉穴のほか、三河国府に関連すると想定される奈良～平安時代のはいきどこう 廃棄土坑や、中世のほったてばしらたてもの 掘立柱建物が検出されています。本日のみ見学が可能です。

また、船山古墳の調査が始まりました。今回の調査地は船山古墳こうえんぶ 後円部側の周溝が検出されています。調査区への進入はできませんが、調査区外の船山古墳の見学は可能ですので、興味をお持ちの方はぜひお立ち寄りください。

(いずれも、現地地図は2ページの●印をご覧ください。)



第2図 調査地平面図



Y=16,000

Y=16,050

Y=16,100

Y=16,150

+

+

+

X=129,000

+

+

+



X=129,050

X=129,100

+

0

第3図 調査地周辺平面図（トーン・塗りつぶし部分は戦国期の遺構）

50m

S=1:500